



高等学校「地理」・「地理B」・「地理探究」教科 書掲載の景観写真の読み取りを促す非連続型テキス トの数的推移とその分析：3出版社の教科書を対象 として

久保, 哲成

(Citation)

兵庫地理, 71:153-172

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100504330>



高等学校「地理」・「地理 B」・「地理探究」教科書掲載の景観写真の読み取りを促す非連続型テキストの数的推移とその分析 — 3 出版社の教科書を対象として —

久保 哲成

I. はじめに

朝倉隆太郎・平田嘉三（(1962)「調査の結果からみた指導上の問題点 2 社会」中等教育資料 11-7 (133) 9-18 文部省 13p.）に「地域の具体的な理解を図るには、いろいろな指導法があろうが、教科書に豊富に掲載されている写真を、もっと有効に利用することもその一つであろう。」と記述があり、教科書に掲載された写真（つまり、景観写真）の有効な利用が児童・生徒たちの地理学習を促進させる有効な教材となることを述べている。しかし、その教科書掲載の景観写真の教材としての具体的な活用方法についての記述はない。

しかし、高等学校学習指導要領では、平成 11 (1999) 年告示と平成 21 (2009) 年告示の（以下、告示年のみの表記とする）の「地理 A・B」の分野、平成 30 (2018) 年告示の「地理総合・探究」の分野で、「地理的な見方・考え方」を高めるための「地理的技能」として「景観写真の読み取り技能」習得の重要性が明記されている。また、教科書に設けられた「地理的技能」習得のためのコラムにも、「景観写真の読み取り技能」を高めるコラムが設けられるようになった。このように「景観写真の読み取り技能」の向上、習得が地理教育において重要な分野になってきた。

また、筆者自身が高等学校教員当時、「地理 B」を教えるなかで、教科書掲載の景観写真の位置づけに大きな変化が現れてきていると感じた。

教科書掲載の景観写真の学習教材としての

位置づけが大きく変わってきているなかで、教科書掲載の景観写真に関する過去の研究をふりかえてみると、その数は非常に少ない。

沖 (2002) の「初版発行が明治期である地理書および地理教科書」を対象とした調査、研究。

澤田 (2015) の「学習指導要領改訂を基準に 5 つの年代を設定し、小学校「地図」帳に掲載されている写真の撮影対象の国、写真内容を分析」した研究¹⁾。

筆者の久保 (2024A) の「中学校社会科地理的分野教科書における掲載景観写真の読み取りを促進する連続型・非連続型と景観写真との関係性を分析した」研究、久保 (2024B) の「高等学校「地理 B」、「地理探究」の教科書分析 掲載の景観写真の読み取りを連続型テキスト、非連続型テキストの視点から数的な変化を総量的に分析」した研究、久保 (2024B) の総量的な分析に続く「非連続型テキスト」の種類内容別分析を試みた久保 (2025) の研究と数が少ない。今回の論文は、久保 (2025) と同じ手法で「地理」、「地理 B」、「地理探究」の教科書を分析したものである。

つまり、久保 (2024B) の総量的な分析で「非連続型テキスト」による景観写真の読み取りの重要性が高まっているとともに、「非連続型テキスト」での読み取りの促しが増加してきているとの分析結果を得た。この分析結果をより精度の高いものにするために、今回は「非連続型テキスト」の種類内容別に分析することを試みた。また、分析教科書は、

本文掲載の景観写真の推移をより明らかにするために「地理」、「地理 B」、「地理探究」の教科書を分析対象とした。その詳細は次の章で述べる。

Ⅱ. 分析範囲

1. 分析対象教科書

分析対象の教科書は A 社、B 社、C 社の 3 社とした。この 3 社は「地理」、「地理 B」、「地理探究」教科書を出版している 3 社である。昨年分析した「地理 A」、「地理総合」教科書との比較が容易と考えられる。

分析対象の教科書は、この 3 社から出版された「地理」教科書の「地理 B」への移行前の 2～3 改訂、A、C 社は 2 冊、B 社は 3 冊（平成元年検定教科書は翌年平成 2 年改訂となっている）。「地理 B」教科書は検定年平成 5（1993）年から、平成 28 年、平成 29 年の、各社 6 冊。検定年令和 4 年「地理探究」各社 1 冊。合計 A 社、C 社は 9 冊、B 社は 10 冊の教科書である。

2. 教科書内における景観写真の分析範囲

教科書掲載の分析対象となる景観写真は、本文に則して載っている景観写真とした。ここでの本文とは教科書の本文ページ数を記した範囲の文章である。よって、巻頭・巻末、口絵等に掲載されている景観写真は対象外と

なる。

ここで分析範囲を本文としたのは、授業では、本文内容を中心に授業が進められる。教師の学習指導では巻頭・巻末、口絵への言及は非常にまれであるからである。

また、本文内ではあるが、「地域調査」に類する単元の景観写真は対象外とした。その理由は次の 2 点である。1 点目は、調査対象地域で撮影された景観写真が多数掲載されるので、特定地域の景観写真の数が多くなり、偏りがでてくる。2 点目は、知識重視の授業ではこの単元の学習を軽視する傾向がある。以上の 2 点が対象外とした理由である。

3. 分析対象の景観写真の範囲

以下の種類以外の掲載写真を分析対象の景観写真とした。

- ①衛星写真：衛星から送られてきた写真画像。基本的に、地域の景観を捉えきれない。
- ②標本写真（田中 1935）：看板、標識、農作物、家畜・鉱物等を写した写真で、背景が写っていない写真。

Ⅲ. 「連続型」と「非連続型」

1. 2 つのテキストの定義

今回の分析では「連続型」と「非連続型」と各々の種類内容で行った。そこで「連続型」

第1表 読み取りを促すテキスト種類別にみた景観写真枚数の推移

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	連続型テキストのみ使用	91	74	72	64	144	80	73	75	72	745	38.5	
	非連続型テキストのみ使用	29	2	12	20	39	54	96	102	125	479	24.7	
	連続・非連続型テキスト併用	48	24	48	36	61	99	107	107	183	713	36.8	
	A計	168	100	132	120	244	233	276	284	380	1937	100	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	連続型テキストのみ使用	39	34	73	34	29	41	84	80	157	62	633	42.3
	非連続型テキストのみ使用	20	12	2	14	30	39	72	61	45	58	353	23.6
	連続・非連続型テキスト併用	8	27	18	33	21	10	91	75	132	97	512	34.2
	A計	67	73	93	81	80	90	247	216	334	217	1498	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	連続型テキストのみ使用	46	15	42	38	84	77	47	164	121	634	40.3	
	非連続型テキストのみ使用	0	56	29	39	62	70	145	61	34	496	31.5	
	連続・非連続型テキスト併用	15	4	4	18	21	70	56	66	189	443	28.2	
	A計	61	75	75	95	167	217	248	291	344	1573	100	

と「非連続型」の定義を示しておく。この定義は、「資料 4 - 9PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向 1PISA 調査における読解力の定義、特徴等」（文部科学省ホームページ(2005)）1.による。

①「連続型」：文と段落から構成され、物語、解説、記述、議論・説得、指示、文章または記録など。

②「非連続型」：データを視覚的に表現した図・「グラフ」、表・マトリクス、技術的な説明などの図、「地図」、書式など。

この定義をもとに、景観写真の読み取りを促す「連続型」、「非連続型」の種類を確定した。

2. 2つのテキストの具体的種類

1)「連続型」の種類

- ①解説文：写真のキャプションを補う文章。
- ②コラム文：本文から外れて別枠を設けて、詳しい解説をおこなっている文章。

2)「非連続型」の要素

- ①「地図」：地形図・地勢図、主題図を中心とする「地図」類。
- ②「グラフ」類
- ③「表・資料」類
- ④「模式図・イラストレーション（以下、イラストと表記）」類

3.「非連続型」の分析対象ページ

景観写真が掲載されているページを含めての見開き2ページにある「非連続型」が景観写真の読み取りを促す関係にあるとして分析した。

見開き2ページを検討対象とした理由は、通常の生徒の学習行動から推察して、見開き2ページ内の景観写真と「非連続型」の確認は容易にするが、他のページにわたって確認することは積極的に行わないという、教師経験上からの判断である。

IV. テキスト別分析

1.各教科書掲載の景観写真枚数の推移

教科書に掲載されている景観写真の読み取りの促しの全体像を概観するために、各社・各教科書総枚数の推移とテキスト別分析を行った。

1) 改訂毎の景観写真総枚数（A 計）の推移

①A 社教科書（以下、A 社と表記、B 社、C 社においても同様の表記）昭和 63 年検定済「地理」（以下、検定済の元号年「科目名」で表示）168 枚が、令和 4 年「地理探究」では 380 枚に増加した（第 1 表）。

②B 社 昭和 62 年「地理」67 枚が令和 4 年「地理探究」217 枚に増加した。

③C 社 昭和 59 年「地理」61 枚が令和 4 年「地理探究」344 枚に増加した。

3 社教科書とも、検定年が新しくなるにしたがって、本文掲載の連続・非連続テキストにより読み取りを促されている景観写真の枚数が増加しているのがわかる（第 1 表）。

2) B 計の分析（テキスト別）

①A 社 「連続型のみ使用」の B 計 745 枚、「非連続型のみ使用」の B 計 479 枚、「連続・非連続型併用」の B 計 713 枚、AB 計 1937 枚となっている。

②B 社 「連続型のみ使用」の B 計 633 枚、「非連続型のみ使用」の B 計 353 枚、「連続・非連続型併用」の B 計 512 枚、AB 計 1498 枚となっている。

③C 社 「連続型のみ使用」の B 計 634 枚、「非連続型のみ使用」の B 計 496 枚、「連続・非連続型併用」の B 計 443 枚、AB 計 1573 枚となっている。

3 社とも「連続型のみ使用」がもっとも多い。2 番目に多いのは、A 社、B 社では「連続・非連続型併用」。C 社のみ「非連続型のみ使用」である。

3) B 計/AB 計（%）の分析（テキスト型別）

①A 社 B 計/AB 計（%）は「連続型のみ使用」38.5%、「非連続型の使用」24.7%、「連続・非連続型併用」36.8%、となる。

②B 社 B 計/AB 計（%）は「連続型のみ使

第2表 各教科書における読み取りを促すテキスト種類別にみた景観写真枚数順位の推移

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	平均	
	連続型テキストのみ使用	1	1	1	1	1	2	3	3	3	1.8	
	非連続型テキストのみ使用	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2.7	
	連続・非連続型テキスト併用	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.6	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	平均
	連続型テキストのみ使用	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1.3
	非連続型テキストのみ使用	2	3	3	3	1	2	3	3	3	3	2.6
	連続・非連続型テキスト併用	3	2	2	2	3	3	1	2	2	1	2.1
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	平均	
	連続型テキストのみ使用	1	2	1	2	1	1	3	1	2	1.6	
	非連続型テキストのみ使用	3	1	2	1	2	2	1	3	3	2.0	
	連続・非連続型テキスト併用	2	3	3	3	3	2	2	2	1	2.3	

用」42.3%、「非連続型のみ使用」23.6%、「連続・非連続型併用」34.2%、となり、「連続型のみ使用」が最も多い。

③C社 B計/AB計(%)は「連続型のみ使用」40.3%、「非連続型のみ使用」31.5%、「連続・非連続型併用」28.2%となり、「連続型のみ使用」が最も多い。

3社の「連続型のみ使用」は38%以上を示す。「連続・非連続型併用」は28.2%～36.8%。「非連続型のみ使用」23.6%～31.5%。

「連続型のみ使用」の割合は高いが、極端には高くない。「非連続型のみ使用」が最も低い数値を示しているが23%以上である。

3つの使用型はいずれかに偏ったかたちにはなっていない。

4) 順位

順位の平均の数値は、A社で「連続型のみ使用」、「非連続型のみ使用」、「連続型・非連続型併用」で、1.8、2.7、1.6と「連続型・非連続型併用」が最も上位になっている(第2表)。

B社で「連続型のみ使用」、「非連続型のみ使用」、「連続型・非連続型併用」で、1.3、2.6、2.1

と「連続型のみ使用」が最も上位になっている。

C社で「連続型のみ使用」

使用」が最も上位になっている。

「連続型のみ使用」がA社は1.8で2位、B社は1.3で1位、C社は1.6で1位と、2社で1位であり、「連続型のみ使用」での景観写真読み取りの促しが上位に来ていることがわかる。

「非連続型のみ使用」がA社で2.7の3位、B社で2.6の3位、C社で2.0の2位と、「非連続型のみ使用」での景観写真読み取りの促しは、上位には来っていない。

調査をしたすべての教科書の平均値は上記のものであるが、令和4年「地理探究」の場合を3社でみると、「連続型・非連続型併用」が3社とも1位となっている。

このことから、「連続型のみ使用」での読み取りの促しの写真枚数は減少している。

「非連続型のみ使用」での読み取りの促しの写真枚数は最も少ない。

しかし、「連続型・非連続型併用」での読み取りの促しが増加傾向にあり、「非連続型」での読み取りの促しがすすんできていることがわかる。

2. 各改訂の総数割合(%)の推移分析

第3表 読み取りを促すテキスト種類別にみた景観写真枚数の割合(%)推移

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	
	連続型テキストのみ使用	54.2	74.0	54.5	53.3	59.0	34.3	26.4	26.4	18.9	
	非連続型テキストのみ使用	17.3	2.0	9.1	16.7	16.0	23.2	34.8	35.9	32.9	
	連続・非連続型テキスト併用	28.6	24.0	36.4	30.0	25.0	42.5	38.8	37.7	48.2	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年
	連続型テキストのみ使用	58.2	46.6	78.5	42.0	36.3	45.6	34.0	37.0	47.0	28.6
	非連続型テキストのみ使用	29.9	16.4	2.2	17.3	37.5	43.3	29.1	28.2	13.5	26.7
	連続・非連続型テキスト併用	11.9	37.0	19.4	40.7	26.3	11.1	36.8	34.7	39.5	44.7
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	連続型テキストのみ使用	75.4	20.0	56.0	40.0	50.3	35.5	19.0	56.4	35.2	
	非連続型テキストのみ使用	0	74.7	38.7	41.1	37.1	32.3	58.5	21.0	9.9	
	連続・非連続型テキスト併用	24.6	5.3	5.3	18.9	12.6	32.3	22.6	22.7	54.9	

第4表 読み取りを促す非連続型テキスト種類数別の景観写真枚数推移(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	1種類	3	1	9	19	35	67	67	68	79	348	69.6	
	2種類	2	0	3	0	4	25	21	19	37	111	22.2	
	3種類以上	0	1	0	1	0	7	8	15	9	41	8.2	
	A計	5	2	12	20	39	99	96	102	125	500	100	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	1種類	17	10	2	10	24	38	57	54	38	29	279	79.3
	2種類	2	2	0	4	6	1	9	6	6	17	53	15.1
	3種類以上	1	0	0	0	0	0	6	1	1	11	20	5.6
	A計	20	12	2	14	30	39	72	61	45	57	352	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	1種類	0	46	27	31	56	59	116	54	25	414	83.6	
	2種類	0	8	2	5	6	7	23	4	6	61	12.3	
	3種類以上	0	2	0	3	0	4	5	3	3	20	4.1	
	A計	0	56	29	39	62	70	144	61	34	495	100	

「連続型のみ使用」、「非連続型のみ使用」、「連続型・非連続型併用」の各改訂における総計の割合(%)の推移をみる(第3表)。

1)「連続型のみ使用」

①A社 昭和63年「地理」54.2%、平成2年「地理」74.0%。平成5年「地理B」54.5%で平成9年「地理B」、平成14年「地理B」は50%台。平成18年「地理B」34.3%に低下し、平成25年「地理B」、平成29年は20%台へ、さらに平成4年「地理探究」は18.9%と低下を続けている。

②B社 昭和62年「地理」58.2%で平成2年「地理」78.5%と上昇したが、平成5年「地理B」42.0%となる。その後、「地理B」の各改訂では、30%台と40%台を行き来していた。平成4年「地理探究」は28.6%と大きく低下した。

③C社 昭和59年「地理」75.4%の高い数値であったが、昭和63年「地理」20.0%と大きく低下した。平成5年「地理B」56.0%で、その後、10%台に落ち、また、50%台に上昇するといった、不規則な動きを示していた。平成4年「地理探究」は35.2%と低下を続けている。

2)「非連続型のみ使用」

①A社 昭和62年「地理」17.3%、平成2年「地理」2.0%に低下。平成5年「地理B」9.1%で、平成9年「地理B」16.7%、平成18年「地理B」は23.2%、平成25年「地理B」34.8%と上昇し、その後、30%台が続く。平成4年「地理探究」は32.9%となった。

②B社 昭和62年「地理」29.9%で、平成元年「地理」16.4%、平成2年「地理」2.2%と低下した。平成5年「地理B」17.3%と上昇した。その後、平成14年「地理B」43.3%まで上昇したが、その後低下していき平成29年「地理B」13.5%まで低下した。平成4年「地理探究」は26.7%と上昇した。

③C社 昭和59年「地理」0%であったが、昭和63年「地理」74.7%と大きく跳ね上がったが、平成5年「地理B」38.7%で落ち着いていった。その後、30%台～50%台を行き来していたが、平成28年「地理B」21%と低下し、平成4年「地理探究」は9.9%と著しく低下した。

3)「連続・非連続型併用」

①A社 昭和63年「地理」28.6%。平成5年「地理B」36.4%と上昇した。その後、25.0%～42.5%の間で推移した。令和4年「地理探究」では48.2%と過去最高値を示した。

②B社 昭和62年「地理」11.9%で、平成元年「地理」37.0%と上昇したが、平成2年「地理」19.4%と低下した。平成5年「地理B」40.7%と著しく上昇した。その後、平成14年「地理B」11.1%と著しく低下した。その後は上昇傾向を示し、平成29年「地理B」39.5%に上昇した。令和4年「地理探究」ではさらに44.7%に上昇した。

③C社 昭和59年「地理」24.6%であったが、昭和63年「地理」5.3%と著しく低下した。平成5年「地理B」も5.3%であった。その後、平成9年「地理B」18.9%に上昇し、

第5表 読み取りを促す非連続型テキスト種類数別景観写真枚数の割合(%) 推移
(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	1種類	60.0	50.0	75.0	95.0	89.7	67.7	69.8	66.7	63.2	
	2種類	40.0	0	25.0	0.0	10.3	25.3	21.9	18.6	29.6	
	3種類以上	0	50.0	0	5.0	0	7.0	8.3	14.7	7.2	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年
	1種類	85.0	83.3	100	71.4	80.0	97.4	79.2	88.5	84.5	50.9
	2種類	10.0	16.7	0	28.6	20.0	2.6	12.5	9.8	13.3	29.8
	3種類以上	5.0	0	0	0	0	0	8.3	1.7	2.2	19.3
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	1種類	0	82.1	93.1	79.5	90.3	84.3	80.6	88.5	73.5	
	2種類	0	14.3	6.9	12.8	9.7	10.0	15.9	6.6	17.7	
	3種類以上	0	3.6	0	7.7	0	5.7	3.5	4.9	8.8	

した数値である。その割合(%)の分布を見つめる(第4表)。

①「1種類使用の割合」

10%台～30%台を行き来していた。令和4年「地理探究」は54.9%と著しく上昇した。

「連続型のみ使用」は3社とも低下傾向である。令和4年「地理探究」では、3社とも「連続型・非連続型併用」が44%以上の最も高い数値を示しており、この型での読み取りの促しが半分近くになっていることがわかる。

V. 「非連続型のみ」で読み取りが促される 景観写真分析

1. 全体分析

1) B計分析

(1)枚数分析

3社の教科書の「1種類」「2種類」「3種類以上」別の対象写真枚数の合計がB計であり、その3つのB計の合計がAB計である(第4表)。このB計を分析する。

①A社 AB計500枚のうち「1種類」B計348枚、「2種類」B計111枚、「3種類以上」B計41枚である。

②B社 AB計352枚のうち、「1種類」B計279枚、「2種類」B計53枚、「3種類以上」B計20枚である。

③C社 AB計495枚のうち、「1種類」B計414枚、「2種類」B計61枚、「3種類以上」B計20枚である。

以上から、3社の教科書すべてで、B計が多い順は「1種類」、「2種類」、「3種類以上」である。「1種類」B計の枚数が非常に多く「3種類以上」の枚数は非常に少ない。

(2)B計割合(%)分析

B計割合(%)は、B計/AB計×100で算出

(%) A社で69.6%、B社で79.3%、C社で83.6%となっている。

②「2種類使用の割合」(%) A社で22.2%、B社で15.1%、C社で12.3%となっている。

③「3種類以上使用」の割合(%) A社で8.2%、B社で5.6%、C社で4.1%と、3社とも10%未満である。

「1種類使用」の割合(%)が3社とも最も高く、「2種類使用」の割合(%)が2番目に高くなっている。「3種類以上使用」の割合(%)は3社とも最も低く10%未満である。

2) A計分析：3社教科書のA計推移の分析

A計とは、3社教科書の各改訂毎の対象景観写真枚数の合計である(第4表)。このA計の推移を分析する。

①A社 昭和63年「地理」は5枚で、平成5年「地理B」12枚と2.4倍に増加し、その後、平成24年「地理B」では96枚と大幅に増加していった。令和4年「地理探究」は125枚とさらに増加している。

②B社 昭和62年「地理」は20枚で、平成5年「地理B」14枚と減少傾向にある。その後、平成9年「地理B」30枚から平成19年「地理B」72枚までは増加していく。平成25年「地理B」61枚、平成29年「地理B」45枚と減少に転じるが、令和4年「地理探究」は57枚と増加している

③C社 昭和63年「地理」は56枚で、平成5年「地理B」で29枚と減少した。その後、平成24年「地理B」144枚と大幅に増加していった。平成28年「地理B」では61枚、令和4年「地理探究」では34枚と減少して

第6表 読み取りを促す1種類の非連続テキスト型の種類別景観写真枚数推移(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図(地形図も含む)	27(1)	7(0)	7(1)	9(1)	21(0)	28(0)	38(0)	40(0)	57(0)	234	60.2	
	グラフ	22	2	1	7	5	11	15	10	11	84	21.6	
	模式図・イラスト	1	4	1	1	4	4	11	15	11	52	13.3	
	表・資料	2	3	0	2	5	1	3	3	0	19	4.9	
	A計	52	16	9	19	35	44	67	68	79	389	100	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	地図(地形図も含む)	7(0)	3(0)	0	4(0)	15(1)	21(0)	39(0)	31(3)	24(1)	11(0)	155	55.4
	グラフ	10	7	2	3	7	12	7	15	9	4	76	27.1
	模式図・イラスト	0	0	0	1	0	4	6	6	5	5	27	9.6
	表・資料	0	0	0	2	2	1	5	2	0	10	22	7.9
	A計	17	10	2	10	24	38	57	54	38	30	280	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図(地形図も含む)	0	32(0)	20(1)	25(2)	51(2)	45(1)	79(1)	31(0)	10(0)	293	70.9	
	グラフ	0	8	4	3	0	4	17	3	3	42	10.2	
	模式図・イラスト	0	5	3	1	5	8	17	20	10	69	16.7	
	表・資料	0	1	0	2	0	2	2	0	2	9	2.2	
	A計	0	46	27	31	56	59	115	54	25	413	100	

理 B」まで 79.5%～90.3%と高い数値の間を推移する。令和4年「地理探究」でも73.5%と若干、数値を低下させたも

いる。

A 計の推移は、3 社で各々違う動きを示している。

2. 3 社教科書の学習指導要領改訂毎の割合(%)の推移

学習指導要領改訂毎の割合(%)の推移を分析する(第5表)。

1)「1 種類使用」の割合(%)の推移

①A 社 昭和 63 年「地理」は 60.0%、平成 2 年「地理」50.0%で、この数値が最も低く、平成 5 年「地理 B」では 75.0%に上昇する。その後、平成 9 年「地理 B」から平成 28 年「地理 B」まで 66.7%～95.0%の間を推移する。令和 4 年「地理探究」でも 63.2%であり、60%以上の数値になっている。

②B 社 昭和 62 年「地理」は 85.0%と高い数値を示して、次の 2 回の改訂でも高い数値を示している。平成 5 年「地理 B」では 71.4%と数値は少し低下したが、その後も高い数値を示している。平成 9 年「地理 B」から平成 29 年「地理 B」まで 79.2%～97.4%の間を推移する。しかし、令和 4 年「地理探究」では 50.9%と 60%を割る数値となった。

③C 社 昭和 59 年「地理」は 0%であるが、昭和 63 年「地理」82.1%と高い数値になった。平成 5 年「地理 B」では 93.1%に上昇する。その後、平成 9 年「地理 B」から平成 28 年「地

の、高い数値を示している。

3 社とも基本、50%以上の数値で推移している。

2)「2 種類使用」の割合(%)の推移

①A 社 昭和 63 年「地理」は 40.0%、平成 2 年「地理」0%である。平成 5 年「地理 B」では 25.0%に上昇したが、平成 9 年「地理 B」に再び 0%、平成 14 から平成 28 年「地理 B」まで 10.3%～25.3%の間を推移する。令和 4 年「地理探究」でも 29.6%と数値が上昇した。

②B 社 昭和 62 年「地理」は 10.0%の数値を示していたが、平成 2 年「地理」には 0%に低下した。平成 5 年「地理 B」では 28.6%と数値は上昇したが、平成 9 年「地理 B」から平成 29 年「地理 B」まで 2.6%～20.0%の間を推移する。しかし、令和 4 年「地理探究」では 29.8%と最も高い数値を示した。

③C 社 昭和 59 年「地理」は 0%であるが、昭和 63 年「地理」14.3%の数値になった。平成 5 年「地理 B」では 6.9%と低下する。その後、平成 9 年「地理 B」から平成 28 年「地理 B」まで 6.6%～15.9%と高い数値の間を推移する。令和 4 年「地理探究」でも 17.7%と最も高い数値を示した。改訂がすすむにつれて、数値が高くなる傾向がみられる。

3)「3 種類以上使用」の割合(%)の推移

①A 社 昭和 63 年「地理」は 0%、平成 2

年「地理」50.0%である。平成5年「地理B」では0%に低下、平成9年「地理B」から平成24年「地理B」まで0%~8.3%の間を推移、平成28年「地理B」には14.7%に上昇するが、令和4年「地理探究」では7.2%と数値は低下した。

②B社 昭和62年「地理」は5.0%の数値を示していたが、その後、平成14年「地理B」まで0%が続いた。平成19年「地理B」8.3%と数値は上昇したが、平成25年「地理B」1.7%、平成29年「地理B」2.2%となる。しかし、令和4年「地理探究」では19.3%と最も高い数値を示した。

③C社 昭和59年「地理」は0%であるが、昭和63年「地理」3.6%になった。平成5年「地理B」ではふたたび0%と低下する。その後、平成9年「地理B」から平成28年「地理B」まで0%~7.7%と低い数値の間を推移する。令和4年「地理探究」では8.8%と最も高い数値を示した。

3社とも最近の4改訂では数値が10%前後で高くなってきている。

3. 1 種類の「非連続型」での読み取り促しの分析 1) 全体分析

(1) A 計推移の分析

1 種類「非連続型」の A 計枚数の推移を分析する（第6表）。

①A社 昭和63年「地理」では52枚が、平成5年「地理B」は9枚と減少した。その後は増加していき、平成28年「地理B」で68枚となった。また、令和4年「地理探究」は79枚とさらに増加した。基本的に増加傾向である。

②B社 昭和62年「地理」17枚から平成2年「地理」の2枚まで減少していく。平成5年「地理B」では10枚となり、その後、増加していく。平成19年「地理B」に57枚となるが、その後減少していき、令和4年「地理探究」では30枚に減少する。

③C社 昭和59年「地理」では0枚であったが、昭和63年「地理」では46枚、令和

5年「地理B」では27枚が平成24年「地理B」では115枚と大きく増加した。しかし、その後の平成28年「地理B」では54枚と半減した。さらに令和4年「地理探究」では25枚とさらに半減した。

1社は増加傾向であるが、2社は増加後、減少傾向である。

(2) B 計割合（%）の分析

B 計割合（%）の算出方法は、B 計/AB 計×100 である（第6表）。この B 計割合（%）を3社教科書で「地図（地形図も含む）」（以下、「地図」と表記）、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の順で分析する。

①「地図」 A社で60.2%、B社で55.4%、C社で70.9%、とすべてで55%以上となっており3社すべてで最も高い数値を示している。

②「グラフ」 A社とB社では2位で、21.6%と27.1%とともに20%台である。C社は10.2%で3位である。

③「模式図・イラスト」 C社では2位で16.7%。A社、B社では13.3%と9.6%で3位である。

④「表・資料」 3社すべてにおいて最も数値は低く、A社で4.9%、B社で7.9%、C社で2.2%と10%未満の数値である。

3社とも「地図」で最も高い数値を示し、「表・資料」が最も低い数値を示している。

2番目は「グラフ」が2社で、「模式図・イラスト」が1社である。

4. 「非連続型」種類別の分析—枚数と割合（%）

1) 地図

(1) 枚数の推移

3社教科書の各教科書で「地図」の枚数の推移を分析する（第6表）。

①A社 昭和63年「地理」の27枚から減少していく。平成5年「地理B」ではわずか7枚である。その後、徐々に増えていき平成14年「地理B」で21枚、平成28年「地理B」には40枚に増えた。令和4年「地理探究」で57枚と大きく増加した。増減の変化

第7表 読み取りを促す1種類の非連続型テキストの種類別景観写真枚数割合(%)の推移
(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	地図(地形図も含む)	51.9	43.8	77.8	47.4	60.0	63.6	56.7	58.8	72.2	
	グラフ	42.3	12.5	11.1	36.8	14.3	25.0	22.4	14.7	13.9	
	模式図・イラスト	1.9	25.0	11.1	5.3	11.4	9.1	16.4	22.1	13.9	
	表・資料	3.8	18.8	0	10.5	14.3	2.3	4.5	4.4	0	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年
	地図(地形図も含む)	41.2	30.0	0	40.0	62.5	55.3	68.4	57.4	63.2	36.7
	グラフ	58.8	70.0	100	30.0	29.2	31.6	12.3	27.8	23.7	13.3
	模式図・イラスト	0	0	0	10.0	0	10.5	10.5	11.1	13.2	16.7
	表・資料	0	0	0	20.0	8.3	2.6	8.8	3.7	0	33.3
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	地図(地形図も含む)	0	69.6	74.1	80.6	91.1	76.3	68.7	57.4	40.0	
	グラフ	0	17.4	14.8	9.7	0	6.8	14.8	5.6	12.0	
	模式図・イラスト	0	10.9	11.1	3.2	8.9	13.6	14.8	37.0	40.0	
	表・資料	0	2.2	0	6.5	0	3.4	1.7	0	8.0	

はあるものの、増加傾向である。

②B社 昭和62年「地理」は7枚から減少していったが、平成5年「地理B」で4枚となり、平成29年「地理B」では24枚と6倍に増加した。また、令和4年「地理探究」では11枚と減少している。

③C社 昭和59年「地理」では0枚、昭和63年「地理」は32枚と大幅に増加した。平成5年「地理B」では20枚と減少したが、平成28年「地理B」で31枚と増加した。また、令和4年「地理探究」では10枚と大幅に減少した。増減の変動が著しい。

(2)割合(%)の推移

①A社 40%～50%未満 2冊、50%～60%未満 3冊、60%～70%未満 2冊、70%以上～80%未満 2冊、となる。50%未満は9教科書のうちわずか2教科書である(第7表)。

このことから、読み取りを促す1種類の「非連続型」として「地図」が最も多く使用されていることが、枚数の分析とともにわかる。

②B社 0%1冊、30%～40%未満 2冊、40%～50%未満 2冊、50%～60%未満 2冊、60%～70%未満 3冊、となる。各改訂での変動の大きさがわかる。

③C社 0%1冊、40%～50%未満 1冊、50%～60%未満 1冊、60%～70%未満 2冊、70%～80%未満 2冊、80%～90%未満 1冊、90%～100%未満 1冊、となる。0%から91.1%と各改訂での変動の大きさがわかる。しかし、9

冊中6冊が60%以上である。

2) グラフ

(1)枚数の推移

①A社 昭和63年「地理」では22枚であるが、その後は大きく減少し、平成5年「地理B」で1枚となった。しかし、平成24年「地理B」で15枚と増加した。また、令和4年「地理探究」では11枚となった(第6表)。

②B社 昭和62年「地理」では10枚であったがその後、減少していく。平成5年「地理B」では3枚となり、その後増加し、平成29年「地理B」で9枚となったが、令和4年「地理探究」で4枚と再び減少した。

③C社 昭和59年「地理」は0枚、昭和63年「地理」8枚、平成5年「地理B」4枚で、一桁台が続く。平成24年「地理B」で17枚と大きく増加したが、平成28年「地理B」3枚、令和4年「地理探究」では3枚と枚数は少ないままである。

(2)割合(%)の推移

①A社 10%～20%未満 5冊、20%～30%未満 2冊、30%～40%未満 1冊、40%～50%未満 1冊、となる。50%以上の教科書は9教科書のうち0冊である(第7表)。

このことから、読み取りを促す1種類の「非連続型」として「地図」に比べて「グラフ」は多く使用されていないことがわかる。

②B社 10%～20%未満 2冊、20%～30%未満 3冊、30%～40%未満 2冊、50%～60%未満 1冊、

70%～80%未満 1冊、90%～100%1冊、となる。

50%以上の教科書は 10 冊中 3 冊とかなり多い。

③C 社 0%～10%未満 5 冊、10%～20%未満 4 冊、となる。9 冊全てが 20%未満と低い数値である。

3)「模式図・イラスト」

(1)枚数の推移

①A 社 昭和 63 年「地理」では 1 枚で、平成 5 年「地理 B」も 1 枚で、平成 18 年「地理 B」まで 4 枚以下であった。しかし、平成

24 年「地理 B」で 11、平成 28 年「地理 B」で 15 枚と二桁台に増加していった。また、令和 4 年「地理探究」では 11 枚と二桁台を維持している（第 6 表）。

②B 社 昭和 62 年「地理」では 0 枚で、「地理」は 0 枚が続いた。平成 5 年「地理 B」の 1 枚、平成 9 年「地理 B」0 枚であったが、その後増加して、4 枚から 6 枚の間で推移し、平成 29 年「地理 B」で 5 枚であった。また、令和 4 年「地理探究」も 5 枚となった。基本、一桁台での推移である。

第8表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストの組合せ別景観写真枚数推移(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)	
	地図＋地図	3	0	1	0	0	1	2	2	11	20	15.6	
	地図＋グラフ	10	0	1	0	0	5	10	17	14	57	44.5	
	地図＋模式図・イラスト	1	0	0	0	0	2	3	3	1	10	7.8	
	地図＋表・資料	0	0	1	0	0	0	0	2	4	7	5.5	
	グラフ＋グラフ	2	0	0	0	4	1	3	9	4	23	18.0	
	グラフ＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1.6	
	グラフ＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	1	0	0	0	0	0	1	3	3	8	6.3	
	模式図・イラスト＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.8	
	A計	17	0	3	0	4	9	21	37	37	128	100	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)
	地図＋地図	0	1	1	0	2	0	1	1	3	4	13	22.8
	地図＋グラフ	2	1	1	3	2	0	4	0	2	0	15	26.3
	地図＋模式図・イラスト	0	0	0	0	1	0	0	2	1	2	6	10.5
	地図＋表・資料	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	6	10.5
	グラフ＋グラフ	0	0	0	2	1	1	2	2	0	1	9	15.8
	グラフ＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.8
	グラフ＋表・資料	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.8
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	模式図・イラスト＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	7.0
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3.5
	A計	2	2	3	5	6	1	9	6	6	17	57	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計(%)	
	地図＋地図	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3	5.1	
	地図＋グラフ	0	6	0	1	3	1	15	1	3	30	50.8	
	地図＋模式図・イラスト	0	0	0	0	2	0	5	1	0	8	13.6	
	地図＋表・資料	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3.4	
	グラフ＋グラフ	0	0	1	2	0	3	0	0	1	7	11.9	
	グラフ＋模式図・イラスト	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3	5.1	
	グラフ＋表・資料	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.7	
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	3.4	
	模式図・イラスト＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	5.1	
	A計	0	8	2	5	6	7	22	4	5	59	100	

③C 社 昭和 59 年「地理」は 0 枚、昭和 63 年「地理」5 枚、平成 5 年「地理 B」3 枚で、一桁台が続くが、平成 24 年「地理 B」で 17 枚、平成 28 年「地理 B」で 20 枚と大きく増加した。令和 4 年「地理探究」では 10 枚と減少したが、二桁台を維持している。

(2)割合(%)の推移

①A 社 0%~10%未満 3 冊、10%~20%未満 4 冊、20%~30%未満 2 冊、となる。9 冊全てが 30%未満と低い数値である(第 7 表)。

②B 社 0%~10%未満 4 冊、10%~20%未満 6 冊、となる。10 冊全てが 20%未満と低い数値である。

③C 社 0%~10%未満 3 冊、10%~20%未満 4 冊、30%~40%未満 1 冊、40%~50%未満 1 冊、となる。平成 28 年「地理 B」で 37.0%、平成 4 年「地理 B」40.0%と、この 2 冊では数値が高くなっている。

4)「表・資料」

(1)枚数の推移

3 社での枚数範囲は、A 社で 0 枚~5 枚、B 社で 0 枚~10 枚、C 社で 0 枚~2 枚と、B 社の令和 4 年「地理 B」以外は、いずれも一桁台の枚数を推移している。大幅な増加を認めることはできないし、各改訂版の枚数も非常に少ない(第 6 表)。

(2)割合(%)の推移

①A 社 0%~10%未満 6 冊、10%~20%未満 3 冊、となる。9 冊全てが 20%未満と低い数値である(第 7 表)。

②B 社 0%~10%未満 8 冊、20%~30%未満 1 冊、となる。平成 5 年「地理 B」版の 20.0%以外は、9 冊全てが 10%未満と低い数値である。

③C 社

0%~10%未満 9 冊で、全ての改訂で 10%未満と低い数値である。

5. 2 種類の「非連続型」での読み取りの促し分析

1) 全体分析

(1)A 計推移の分析

種類を問わず「非連続型」の A 計枚数の推

移を 3 社教科書別に分析する(第 8 表)。

①A 社 昭和 63 年「地理」では 17 枚が、平成 2 年「地理」で 0 枚、平成 5 年「地理 B」の 3 枚、平成 9 年「地理 B」で 0 枚であったが、その後は増加していき、平成 24 年「地理 B」21 枚、平成 29 年「地理 B」37 枚と増加した。令和 4 年「地理探究」は 37 枚と、基本的に増加傾向である。

②B 社 昭和 62 年「地理」2 枚から平成 2 年「地理」の 3 枚となっている。平成 5 年「地理 B」では 5 枚と、少し増加しているが、平成 29 年「地理 B」まで 9 枚が最も多く、二桁に満たない。令和 4 年「地理探究」では 17 枚と増加した。

③C 社 昭和 59 年「地理」では 0 枚、昭和 63 年「地理」8 枚となったが、平成 5 年「地理 B」では 2 枚になった。平成 24 年「地理 B」では 22 枚と大きく増加した。しかし、平成 28 年「地理 B」では 4 枚と大きく減った。さらに令和 4 年「地理探究」では 5 枚と少ない。平成 24 年「地理 B」の 22 枚以外は、全ての改訂で 10 枚未満で、非常に少ない事がわかる。

(2)B 計割合(%)の分析

B 計割合(%)の算出方法は、B 計/AB 計×100 である。3 社教科書で 2 種類の「非連続型」の組み合わせの上位 3 位までを抽出する(第 8 表)。

①A 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合(%)が高く、44.5%である。2 位は、「グラフ+グラフ」の 18.0%。3 位は「地図+地図」の 15.6%である。

②B 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合(%)が高く、26.3%である。2 位は「地図+地図」の 22.8%である。3 位は「グラフ+グラフ」の 15.8%である。

③C 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合(%)が高く、50.8%である。2 位は、「地図+模式図・イラスト」の 13.6%。3 位は「グラフ+グラフ」

の 11.9%である。

3社とも上位3位までの組み合わせで、「地図+α」の組み合わせが2つある。また、「グラフ+グラフ」が3社とも上位3位以内にはいつていることも注目すべき点である。

2)「地図+α」の組み合わせの分析

次に2種類の「非連続型」での読み取りの促しでの2種類の組み合わせを分析してみる。1種類の「非連続型」の分析において「地図」による読み取りの促しが非常に多かったのも、「地図」との組み合わせに着目して分析した。「地図+α」の組み合わせは、「地図+α」の形が全組合せ10種類のなかで4種類と40%である(第9表)。

(1)総枚数とその割合(%)

3社の「総計」における「地図+α」の枚数とその割合(%)を見てみる(第9表)。

- ①A社 128枚中、94枚で73.4%。
- ②B社 57枚中、39枚で68.4%。
- ③C社 59枚中43枚、で72.9%。

「地図+α」の割合(%)は、3社教科書で68%以上となり各社教科書で非常に高い数値を示している。つまり、2種類の「非連続型」の組み合わせの読み取りでは、「地図+α」の組み合わせで読み取らせている写真枚数の割合が高いことがわかる。

(2)割合(%)の推移

さらに、割合(%)の推移をみる(第9表)。

①A社 0%が3教科書あるが、6教科書で64.9%~100%の高い数値の間で推移している。ただ一定の傾向は示していない。

②B社 平成14年「地理B」の0%を例外として、50.0%~100%の高い数値の間で推移している。特に100%の教科書が4教科書ある。「地図+α」での読み取りが非常に高い数値を示していることがわかる。

③C社 昭和59年「地理」と平成5年「地理B」で0%、平成9年「地理B」、平成18年「地理B」の20%、14.3%と低い数値を示している改訂が4回ある。あとの6教科書では72.9%~100%の高い数値の間で推移しているが、一定の傾向は示していない。

各社教科書とも2種類の「非連続型」の組み合わせで読み取りを促す場合は「地図+α」の形が非常に高い数値を示すことであることがわかる。ここでも「地図」が読み取りを促す「非連続型」の中心であることがわかる。

VI.「連続型と非連続型併用」での読み取りの促し分析

この章では「連続型と非連続型併用」の分析をおこなっていく。「解説文」、「コラム文」、「解説文・コラム文併用」の「連続型」と「地図」、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の「非連続型」の併用で読み取りを促される景観写真を対象とした分析である。

「連続型・非連続型併用」の種類の分類は「非連続型」の種類で行った。この章の分析では、上記の3種類の「連続型」では区分せず、一括りに「連続型」として、4種類の「非連続型」の種類分けで分析した。また、「連続型」をテキストの数に入れず「非連続

第9表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストで「地図+α」の組合せ写真枚数と割合(%)の推移
(非連続型テキストのみ使用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成29年	令和4年	総計	
	総枚数	17	0	3	0	4	9	21	37	37	128	
	「地図+α」枚数	14	0	3	0	0	8	15	24	30	94	
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	82.4	0	100	0	0	88.9	71.4	64.9	81.1	73.4	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	総計
	総枚数	2	2	3	5	6	1	9	6	6	17	57
	「地図+α」枚数	2	2	2	3	3	0	5	6	6	10	39
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	100	66.7	60.0	50.0	0	55.6	100	100	58.8	68.4
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	総計	
	総枚数	0	8	2	5	6	7	22	4	5	59	
	「地図+α」枚数	0	7	0	1	6	1	21	3	4	43	
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	0	87.5	0	20.0	100	14.3	95.5	75.0	80.0	72.9	

第10表 読み取りを促す非連続型テキスト使用種類数別の景観写真枚数推移
(連続型・非連続型テキスト併用)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	1種類使用	50	15	41	31	46	67	66	75	129	520	70.6	
	2種類使用	14	3	6	3	7	25	16	18	46	138	18.7	
	3種類以上使用	8	6	1	2	8	7	25	14	8	79	10.7	
	A計	72	24	48	36	61	99	107	107	183	737	100	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	1種類使用	5	26	15	24	19	9	85	67	118	83	451	86.7
	2種類使用	3	1	3	9	2	1	6	7	14	18	64	12.3
	3種類以上使用	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	5	1.0
	A計	8	27	18	33	21	10	91	75	132	105	520	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	1種類使用	9	2	4	17	17	56	52	3	138	298	77.4	
	2種類使用	4	1	0	1	4	12	4	4	43	73	19.0	
	3種類以上使用	2	1	0	0	0	2	1	0	8	14	3.6	
	A計	15	4	4	18	21	70	57	7	189	385	100	

型」の種類の数で区分して分析をした。

あることがわかる。

1. 全体分析

(2) A 計推移の分析

1) 枚数分析

A 計とは、3 社教科書の各改訂版毎の対象景観写真枚数の合計である（第 10 表）。この A 計の推移を分析する。この枚数の推移に対する分析は、今まで行ってきた分析方法で同様に行った。

(1) B 計分析

B 計では 3 社教科書の対象景観写真枚数を「非連続型」を「1 種類使用」、「2 種類使用」、「3 種類以上使用」に分けて集計し、分析する（第 10 表）。

①A 社 AB 計 737 枚のうち「1 種類」B 計 520 枚、「2 種類」B 計 139 枚、「3 種類以上」B 計 79 枚、である。

②B 社 AB 計 520 枚のうち、「1 種類」B 計 451 枚、「2 種類」B 計 64 枚、「3 種類以上」B 計 5 枚、である。

③C 社 AB 計 385 枚のうち、「1 種類」B 計 298 枚、「2 種類」B 計 73 枚、「3 種類以上」B 計 14 枚、である。

①A 社 昭和 63 年「地理」は 72 枚とかなり多くの枚数となったが、その後減少していき、平成 5 年「地理 B」は 48 枚。平成 18 年「地理 B」で 99 枚と増加した。平成 25 年「地理 B」から 107 枚となり、以後、令和 4 年「地理探究」は 183 枚と増加している。

②B 社 昭和 62 年「地理」では 8 枚と一桁台であったが、平成元年「地理」は 27 枚と二桁台に増加した。平成 5 年「地理 B」で 33 枚と増加し、平成 19 年「地理 B」91 枚、

写真枚数の多さは、3 社教科書とも「1 種類使用」、「2 種類使用」、「3 種類以上使用」の順で

第11表 読み取りを促す非連続型テキスト使用種類別景観写真枚数の割合(%)の推移
(連続型・非連続型テキスト併用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成28年	令和4年	
	1種類使用の割合(%)	69.5	62.5	85.4	86.1	75.4	67.7	61.7	70.1	70.5	
	2種類使用の割合(%)	19.4	12.5	12.5	8.3	11.5	25.2	14.9	16.8	25.1	
	3種類以上使用の割合(%)	11.1	25.0	2.1	5.6	13.1	7.1	23.4	13.1	4.4	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年
	1種類使用の割合(%)	62.5	96.3	83.3	72.7	90.5	90.0	93.4	89.4	89.4	79.1
	2種類使用の割合(%)	37.5	3.7	16.7	27.3	9.5	10.0	6.6	9.3	10.6	17.1
	3種類以上使用の割合(%)	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	3.8
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	1種類使用の割合(%)	60.0	50.0	100	94.4	81.0	80.0	91.2	42.9	73.0	
	2種類使用の割合(%)	26.7	25.0	0	5.6	19.0	17.1	7.0	57.1	22.8	
	3種類以上使用の割合(%)	13.3	25.0	0	0	0	2.9	1.8	0	4.2	

平成 25 年「地理 B」75 枚と増加傾向を示し、平成 29 年「地理 B」では 132 枚と三桁に増加した。令和 4 年「地理探究」でも 105 枚と三桁台である。

③C 社 昭和 59 年「地理」では 15 枚であったが、その後減少し、平成 5 年「地理 B」は 4 枚であった。平成 9 年「地理 B」から 18 枚と二桁に増加し、平成 18 年「地理 B」では 70 枚となったものの、平成 28 年「地理 B」にはわずか 7 枚と減少した。令和 4 年「地理探究」では 189 枚と大幅に増加した。

令和 4 年「地理探究」では 3 社とも 100 枚台に増加した。

2) 割合 (%) 分析

(1) B 計割合 (%) (B 計/AB 計 × 100)

3 社とも「1 種類使用」、「2 種類使用」、「3 種類以上使用」の順で、その割合 (%) の分布を見てみる (第 10 表)。

「1 種類使用」の割合 (%) は、A 社で 70.6%、B 社で 86.7%、C 社で 77.4%と、最も高くなっている。

「2 種類使用」の割合 (%) は、A 社で 18.7%、B 社で 12.3 %、C 社で 19.0 %と、2 番目に高くなっている。

「3 種類以上使用」の割合 (%) は、A 社で 10.7%、B 社で 1.0 %、C 社で 3.6 %と、最も低くなっている。

2) 学習指導要領改訂毎の割合 (%) の推移

(1) 「1 種類使用」の割合 (%) の推移

①A 社 60%
～70%未満 4
冊、70%～80%
未満 3 冊、
80%～90%未満
2 冊、と全ての
改訂で 61%
以上の高い数
値を示してい
る (第 11
表)。

②B 社 60%～70%未満 1 冊、70%～80%未満 2 冊、80%～90%未満 3 冊、90%～100%4 冊で、すべて 62%以上と高い数値を示している。

③C 社 40%～50%未満 1 冊、50%～60%未満 1 冊、60%～70%未満 1 冊、70%～80%未満 1 冊、80%～90%未満 2 冊、90%～100%3 冊の分布である。42.9%～100%と大きい幅の数値を示している。

(2) 「2 種類使用」の割合 (%) の推移

①A 社 0%～10%未満 1 冊、10%～20%未満 6 冊、20%～30%未満 2 冊、となっている。8.3%～25.2%の間にはいる。

②B 社 0%～10%未満 4 冊、10%～20%未満 4 冊、20%～30%未満 1 冊、30%～40%未満 1 冊の分布である。3.7%～37.5%と幅が広い。

③C 社 0%～10%未満 3 冊、10%～20%未満 2 冊、20%～30%未満 3 冊、50%～60%未満 1 冊、の分布である。平成 28 年「地理 B」の 57.1%のみが突出して高い数値を示している。

(3) 「3 種類以上使用」の割合 (%) の推移

①A 社 0%～10%未満 4 冊、10%～20%未満 3 冊、20%～30%未満 2 冊、となっている。0%の教科書はなく、25%以下の数値であるが、すべての改訂で数値はあがっている。

②B 社 0%～10%未満 10 冊、となっている。最も高い数値は令和 4 年「地理探究」3.8%でかなり低い数値を示している。

③C 社 0%～10%未満 7 冊、10%～20%未満 1 冊、20%～30%未満 1 冊、の分布である。B

第12表 読み取りを促す1種類の非連続型テキストの種類別景観写真枚数推移(連続型・非連続型テキスト併用)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図(地形図も含む)	27	7	28	17	26	51	39	44	86	325	62.1	
	グラフ	22	1	10	11	13	7	9	15	24	112	21.4	
	模式図・イラスト	2	4	2	3	7	7	11	11	15	62	11.9	
	表・資料	2	3	1	0	0	2	7	5	4	24	4.6	
	A計	53	15	41	31	46	67	66	75	129	523	100	
B社	教科書検定年	平成62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成24年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	地図(地形図も含む)	4	16	5	16	13	8	62	50	73	42	289	65.4
	グラフ	1	10	8	5	2	0	14	7	21	11	79	17.9
	模式図・イラスト	0	0	1	3	2	1	8	2	21	13	51	11.5
	表・資料	0	0	1	0	2	0	1	1	3	15	23	5.2
	A計	5	26	15	24	19	9	85	60	118	81	442	100
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図(地形図も含む)	5	0	4	9	15	47	37	38	106	261	74.6	
	グラフ	3	1	0	0	0	2	8	8	18	40	11.4	
	模式図・イラスト	1	1	0	8	2	7	7	9	12	47	13.4	
	表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.6	
	A計	9	2	4	17	17	56	52	55	138	350	100	

社ほどではないが、低い数値を示している。

2. 1 種類の「非連続型」での読み取りの促し分析

1) 全体分析

(1) A 計推移の分析

A 計とは、3 社の各改訂版毎の対象景観写真枚数の合計である（第 12 表）。この A 計の推移を分析する。

①A 社 昭和 63 年「地理」は 53 枚とかなり多かったが、平成 2 年「地理」では 15 枚と大幅に減少。平成 5 年「地理 B」41 枚と増加に転じ、平成 18 年「地理 B」67 枚と増加、その後も平成 28 年「地理 B」75 枚と増加している。また、令和 4 年「地理探究」は 129 枚と大幅に増加し、三桁台に増加した。増減はあるものの、増加傾向を示している。

②B 社 昭和 62 年「地理」は 5 枚と少なかった。その後平成元年「地理」では 26 枚と増加し、二桁台になった。平成 5 年「地理 B」24 枚となり、その後、減少に転じ平成 14 年「地理 B」では 9 枚と一桁台に落ちたが、平成 19 年「地理 B」では 85 枚と一挙に増加、その後も平成 29 年「地理 B」118 枚と増加した。令和 4 年「地理探究」は 81 枚と減少している。増減はあるものの、増加傾向を示している。

③C 社 昭和 59 年「地理」は 9 枚、その後、平成 5 年「地理 B」4 枚まで一桁台であった。平成 9 年「地理 B」17 枚と二桁に増加し、その後平成 28 年「地理 B」55 枚と増加した。令和 4 年「地理探究」では 138 枚と大幅に増加し、三桁台になり、増加傾向を示している。

(2) B 計割合（％）の分析

B 計割合（％）の算出方法は、 $B \text{ 計} / A \text{ B 計} \times 100$ である（第 12 表）。この B 計割合（％）を 3 社教科書で「地図」、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の順で分析する。

①「地図」 3 社すべてにおいて「地図」が最も数値が高い。A 社 62.1%、B 社 65.4%、C 社で 74.6%である。3 社とも 60%～75%台である。

②「グラフ」 A 社、B 社では 2 位で、21.4%、17.9%である。C 社は 11.4%で 3 位である。

③「模式図・イラスト」 C 社では 13.4%で 2 位である。A 社、B 社では 11.9%、11.5%で 3 位である。

④「表・資料」は、3 社教科書すべてにおいて最も数値が低く、A 社 4.6%、B 社 5.2%、C 社はわずか 0.6%である。

2) 種類別の分析—枚数とその割合（％）

(1) 地図

①枚数の推移

3 社の各教科書で「地図」の枚数の推移を分析する（第 12 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 27 枚であったが、平成 2 年「地理」には 7 枚と大きく減少した。平成 5 年「地理 B」28 枚とふたたび増えた。平成 18 年「地理 B」に 51 枚と増加した。令和 4 年「地理探究」86 枚と増加した。増減の変化はあるものの、増加傾向を示している。

B. B 社 昭和 62 年「地理」は 4 枚であったが、平成元年「地理」には 16 枚に増加するものの、平成 2 年「地理」には 5 枚と減少した。平成 5 年「地理 B」16 枚とふたたび増えた。平成 19 年「地理 B」に 62 枚と大幅に増加し、その後、50 枚以上を示している。令和 4 年「地理探究」42 枚と減少した。しかし、増加傾向を示している。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 5 枚であったが、昭和 63 年「地理」には 0 枚と減少した。平成 5 年「地理 B」4 枚となり、その後、増加していった。平成 18 年「地理 B」に 47 枚となった。その後、少し減少していった。令和 4 年「地理探究」106 枚と大幅に増加した。

②割合（％）の推移

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 50.9%であったが、平成 2 年「地理」には 46.7%と減少した。平成 5 年「地理 B」68.3%と増えた。平成 18 年「地理 B」に 76.1%と増加したが、その後、50%台になったが、令和 4 年「地理探究」66.7%と増加した（第 13 表）。

B. B 社 昭和 62 年「地理」は 80%と高い数値であったが、平成 2 年「地理」33.3%と

減少した。平成 5 年「地理 B」66.7%とふたたび増えた。平成 14 年「地理 B」には 88.9%と大幅に増加し、その後、平成 24 年「地理 B」に再び 80%台になったが、令和 4 年「地理探究」51.9%と減少した。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 55.6%であったが、昭和 63 年「地理」には 0%となった。平成 5 年「地理 B」100%となり、その後、50%以上を示している。令和 4 年「地理探究」76.8%と高い数値を示している。

(2)「グラフ」

①枚数の推移

3 社教科書の「グラフ」の枚数の推移を分析する（第 12 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 22 枚であったが、平成 2 年「地理」には 1 枚と大きく減少した。平成 5 年「地理 B」10 枚とふたたび増えた。平成 14 年「地理 B」には 13 枚と増加した。その後、2 改訂が 7 枚、9 枚に減少したが、平成 28 年「地理 B」には 15 枚に増加した。令和 4 年「地理探究」24 枚と増加し、最も多い枚数を示した。

B. B 社 昭和 62 年「地理」は 1 枚であったが、平成元年「地理」に 10 枚と増加した。その後、一桁台が続いた。平成 19 年「地理 B」14 枚と再び二桁台になり、平成 29 年「地理 B」21 枚となる。令和 4 年「地理探究」11 枚と減少した。増減の変化があり、一定の傾向を示していない。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 3 枚であった。平成 5 年「地理 B」0 枚となり、平成 24 年「地理 B」に 8 枚と増加するまで低い数値を示していた。令和 4 年「地理探究」18 枚と、はじめて二桁に増加した。

②割合（％）の推移

3 社教科書での割合（％）の推移を見ている

（第 13 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 41.5%であったが、平成 2 年「地理」には 6.7%と減少した。平成 5 年「地理 B」24.4%と増えた。平成 18 年「地理 B」に 10.4%と減少した。その後、平成 28 年「地理 B」19.9%になったが、令和 4 年「地理探究」18.6%と減少した。

B. B 社 昭和 62 年「地理」は 20.0%と高い数値であった。平成 2 年「地理」も 53.3%と高い数値を示した。平成 5 年「地理 B」20.8%と減少し、その後、10%台になった。令和 4 年「地理探究」も 13.6%と 10%台であった。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 33.3%であったが、平成 5 年「地理 B」0%となった。その後、平成 24 年「地理 B」15.4%まで、5%未満の数値が続いた。令和 4 年「地理探究」13.1%と、平成 24 年「地理 B」以降は 10%台と安定している。

(3)「模式図・イラスト」

①枚数の推移

3 社の「模式図・イラスト」の枚数の推移を分析する（第 12 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 2 枚、平成 2 年「地理」には 4 枚である。平成 5 年「地理 B」2 枚にふたたびなった。平成 14 年「地理 B」は 7 枚と増加した。その後、平成 25 年「地理 B」に 11 枚に増加した。令和 4 年「地理探究」15 枚と増加した。増加傾向である。

B. B 社 昭和 62 年「地理」、平成元年「地理」は 0 枚であった。平成 5 年「地理 B」3 枚とわずかに増加した。平成 19 年「地理 B」

第13表 読み取りを促す1種類の非連続型テキストの種類別景写真枚数割合(%)の推移
(連続型・非連続型テキスト併用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成28年	令和4年	
	地図(地形図も含む)	50.9	46.7	68.3	54.8	56.5	76.2	59.1	58.7	66.7	
	グラフ	41.5	6.7	24.4	35.5	28.3	10.4	13.6	19.9	18.6	
	模式図・イラスト	3.8	26.7	4.9	9.7	15.2	10.4	16.7	14.7	11.6	
	表・資料	3.8	19.9	2.4	0	0	3.0	10.6	6.7	3.1	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成24年	平成29年	令和4年
	地図(地形図も含む)	80.0	61.5	33.3	66.7	68.5	88.9	72.9	83.3	61.9	51.9
	グラフ	20.0	38.5	53.3	20.8	10.5	0.0	16.5	11.7	17.8	13.6
	模式図・イラスト	0	0	6.7	12.5	10.5	11.1	9.4	3.3	17.8	16.0
	表・資料	0	0	6.7	0	10.5	0	1.2	1.7	2.5	18.5
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	
	地図(地形図も含む)	55.6	0.0	100.0	52.9	88.2	83.9	71.1	69.1	76.8	
	グラフ	33.3	50.0	0	0	0	3.6	15.4	14.5	13.1	
	模式図・イラスト	11.1	50.0	0	47.1	11.8	12.5	13.5	16.4	8.7	
	表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	1.4	

8 枚となり、平成 29 年「地理 B」21 枚と初めて二桁台になる。令和 4 年「地理探究」13 枚と減少したが、増加傾向を示している。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 1 枚であった。平成 5 年「地理 B」0 枚となり、平成 9 年「地理 B」に 8 枚と増加するまで低い数値を示していた。平成 18 年「地理 B」7 枚以降は増加し、令和 4 年「地理探究」12 枚と、はじめて二桁に増加した。

②割合（％）の推移

3 社教科書での割合（％）の推移を見てみる（第 13 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 3.8%であったが、平成 2 年「地理」には 26.7%と増加した。平成 5 年「地理 B」4.9%と減少したが、その後、増加傾向である。平成 14 年「地理 B」15.2%以降二桁台である。令和 4 年「地理探究」も 11.6%と二桁台である。

B. B 社 昭和 62 年「地理」、平成元年「地理」は 0%である。平成 2 年「地理」6.7%となり、平成 5 年「地理 B」12.5%と増加した。その後、10%台が続いたが、平成 19 年「地理 B」9.4%、平成 24 年「地理 B」3.3%と数値を大きく落としていった。平成 29 年「地理 B」17.8%、令和 4 年「地理探究」16.0%と 10%台になった。

C. C 社 昭和 59 年「地理」は 11.1%であった。昭和 63 年「地理」50.0%であったが、平成 5 年「地理 B」0%となった。その後、平成 9 年「地理 B」47.1%となったが、その後、10%台の数値が続いた。令和 4 年「地理探究」8.7%と一桁台に落ちた

(4)「表・資料」

①枚数の推移

3 社教科書の「表・資料」の枚数の推移を分析する（第 12 表）。

A. A 社 すべての改訂で 10 枚未満である。0 枚が 2 冊、1 枚～4 枚が 5 冊、5 枚～9 枚が 2 冊。最も枚数が多いのが平成 25 年「地理 B」の 7 枚である。全ての改訂において枚数

が少ない事がわかる。

B. B 社 令和 4 年「地理探究」15 枚と二桁を示しているが、他の全ての改訂において 3 枚以内と非常に少ない。

C. C 社 令和 4 年「地理探究」で 2 枚を示しているが、他の全ての改訂において、0 枚となっている。

②割合（％）の推移

3 社教科書での割合（％）の推移を見てみる（第 13 表）。

A. A 社 昭和 63 年「地理」は 3.8%であったが、平成 2 年「地理」には 19.9%と増加した。平成 5 年「地理 B」2.4%と減少し、その後、0%が続き、平成 25 年「地理 B」に 10.6%となった。令和 4 年「地理探究」3.1%と減少した。

B. B 社 昭和 62 年「地理」、平成元年「地理」は 0%である。平成 2 年「地理」6.7%となり、平成 5 年「地理 B」で再び 0%となる。その後、平成 9 年「地理 B」10.5%と増加するが、その後、3.0%以下が続く。令和 4 年「地理探究」18.5%と 10%台となった。

C. C 社 令和 4 年「地理探究」1.4%であるが、他の全ての改訂は 0%である。

3. 2 種類の「非連続型」での読み取りの促し分析

1) 全体分析

(1)A 計推移の分析

種類を問わず 2 種類の「非連続型」の A 計枚数の推移を 3 社教科書別に分析する（第 14 表）。

①A 社 昭和 63 年「地理」では 14 枚、平成 2 年「地理」で 3 枚、平成 5 年「地理 B」6 枚以降 10 枚未満であったが、平成 18 年「地理 B」で 25 枚と増加し、その後は二桁台の数値である。令和 4 年「地理探究」は 46 枚と大幅に増加した。基本的に増加傾向である。

②B 社 昭和 62 年「地理」3 枚、その後 1 枚、3 枚となり、平成 5 年「地理 B」では 9 枚と増加したが、その後も一桁台が続き、平成 29 年「地理 B」14 枚が初めて二桁になった。令和 4 年「地理探究」では 18 枚と増加した。

③C 社 昭和 59 年「地理」では 4 枚であ

ったが、昭和 63 年「地理」では 1 枚と減少し、令和 5 年「地理 B」では 0 枚となった。平成 18 年「地理 B」で 12 枚と増加したが、その後一桁台になり大きく減った。令和 4 年「地理探究」では 37 枚と大きく増加した。

(2) B 計割合 (%) の分析

B 計割合 (%) の算出方法は、B 計/AB 計×100 である(第 14 表)。

3 社教科書で 2 種類の非連続テキストの組み合わせの上位 3 位までを抽出する。

A. A 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合 (%) が高く、43.1%である。2 位は、「グラフ+グラフ」の 13.9%。3 位は「地図+地図」の 13.1%である。

B. B 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合 (%) が高く、29.5%である。2 位は「地図+地図」の 23.0%である。3 位は「地図+表・資料」と「地図+模式図・イラスト」がともに 14.8%である。

C. C 社 「地図+グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も割合 (%) が高く、34.3%で

ある。2 位は、「地図+模式図・イラスト」の 24.3%。3 位は「地図+地図」の 12.9%である。

3 社とも上位 3 位までの組み合わせで、「地図+α」の組み合わせが 10 組のうち 9 組である。「グラフ+グラフ」が 1 組はいつているのみである。

2) 2 種類の「非連続型」の組み合わせの分析

次に 2 種類の「非連続型」での読み取りの促しでの 2 種類の組み合わせを分析してみる。1 種類の「非連続型」の分析において「地図」による読み取りの促しが非常に多かったので、「地図」との組み合わせに着目して分析した。「地図+α」の組み合わせは、「地図+α」の形が全組合せ 10 種類のなかで 4 種類と 40%である。

(1) 総枚数とその割合 (%)

3 社の「総計」における「地図+α」の枚数とその割合 (%) を見てみる(第 15 表)。

①A 社 137 枚中、97 枚で 70.8%。

②B 社 61 枚中、50 枚で 82.0%。

③C 社 70 枚中、52 枚で 74.3%。

「地図+α」の割合 (%) は、3 社教科書

第14表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストの組合せ別景観写真枚数推移(連続型・非連続型テキスト併用の場合)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図＋地図	2	0	0	0	2	1	1	2	10	18	13.1	
	地図＋グラフ	9	1	4	3	1	14	4	6	17	59	43.1	
	地図＋表・資料	0	0	0	0	0	0	4	2	6	12	8.8	
	地図＋模式図・イラスト	1	1	0	0	0	2	1	1	2	8	5.8	
	グラフ＋グラフ	1	1	2	0	1	3	3	6	2	19	13.9	
	グラフ＋表・資料	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2.2	
	グラフ＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	1	0	1	2	4	2.9	
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	表・資料＋模式図・イラスト	1	0	0	0	0	0	0	0	4	5	3.6	
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	0	0	0	0	3	3	2	0	1	9	6.6	
A計	14	3	6	3	7	25	15	18	46	137	100		
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)
	地図＋地図	1	0	1	2	0	0	0	3	5	3	14	23.0
	地図＋グラフ	0	1	1	6	1	0	1	0	6	2	18	29.5
	地図＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	3	2	4	9	14.8
	地図＋模式図・イラスト	2	0	0	0	0	0	2	1	1	5	9	14.8
	グラフ＋グラフ	0	0	0	1	1	0	3	0	0	2	7	11.5
	グラフ＋表・資料	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.6
	グラフ＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	表・資料＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3.3
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.6
A計	3	1	3	9	2	1	6	7	14	18	61	100	
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	B計	B計/AB計 (%)	
	地図＋地図	1	0	0	1	3	0	0	0	4	9	12.9	
	地図＋グラフ	3	1	0	0	0	1	2	3	14	24	34.3	
	地図＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2.9	
	地図＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	2	1	0	14	17	24.3	
	グラフ＋グラフ	0	0	0	0	0	3	0	3	0	6	8.6	
	グラフ＋表・資料	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6	8.6	
	グラフ＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2.9	
	表・資料＋表・資料	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	4.3	
	表・資料＋模式図・イラスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.4	
A計	4	1	0	1	4	12	4	7	37	70	100		

で 70%以上となり各社教科書で非常に高い数値を示している。つまり、2 種類の「非連続型」の組み合わせの読み取りでは、「地図+α」の組み合わせで読み取らせてい

第15表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストで「地理+α」の組み合わせ写真枚数と割合(%) (連続型・非連続型テキスト併用)

A社	教科書検定年	昭和63年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	総計	
	総枚数	14	3	6	3	7	25	15	18	46	137	
	「地図+α」枚数	12	2	4	3	3	17	10	11	35	97	
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	85.7	66.7	66.7	100	42.9	68.0	66.7	61.1	76.1	70.8	
B社	教科書検定年	昭和62年	平成元年	平成2年	平成5年	平成9年	平成14年	平成19年	平成25年	平成29年	令和4年	総計
	総枚数	3	1	3	9	2	1	6	7	14	18	61
	「地図+α」枚数	3	1	2	8	1	0	3	7	14	14	50
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	100	66.7	88.9	50.0	0	50.0	100	100	77.8	82.0
C社	教科書検定年	昭和59年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和4年	総計	
	総枚数	4	1	0	1	4	12	4	7	37	70	
	「地図+α」枚数	4	1	0	1	3	3	3	3	34	52	
	「地図+α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	100	0	100	75.0	25.0	75.0	42.9	91.9	74.3	

る写真枚数の割合が高いことがわかる。

(2)割合(%)の推移

さらに、割合(%)の推移をみる(第15表)。

①A社 9教科書中8教科書が61.1%～100%の高い数値の間で推移している。唯一平成14年「地理B」のみ42.9%と5割を下回っている。

②B社 平成14年「地理B」の0%を例外として、50.0%～100%の高い数値の間で推移している。特に目立つのは100%の教科書が4教科書あり、2種類の「非連続型」のみでの景観写真の読み取りの促しでは、「地図+α」での読み取りが非常に高い数値を示していることがわかる。

③C社 平成5年「地理B」が0%、平成18年「地理B」25.0%、平成28年「地理B」42.9%、が50%を割っている。昭和59年「地理」、昭和63年「地理B」、平成9年「地理B」で100%。平成14年「地理B」、平成24年「地理B」で75.0%。令和4年「地理探究」は91.9%、の高い数値の間で推移しているが、一定の傾向は示していない。

各社教科書とも2種類の「非連続型」の組み合わせで読み取りを促す場合は「地図+α」の形が非常に高い数値を示すことであることがわかる。ここでも「地図」が読み取りを促す「非連続型」の中心であることがわかる。

Ⅶ. まとめ

1. 分析結果

1)教科書掲載の景観写真枚数の推移

①3社とも改訂毎に連続型、非連続型による読み取りを促される景観写真の枚数は増加

している。

②累計枚数は3社とも「連続型のみ使用」の景観写真

枚数が最も多い。2番目に多いのはA社、B社「連続・非連続型併用」。C社「非連続型のみ使用」となっている。

③3社とも「連続型のみ使用」の割合は高い。「非連続型のみ使用」が最も低い数値だが、3つの使用型の割合に大きな差はない。

④3社とも令和4年「地理探究」では「連続型・非連続型併用」が1位となる。「連続型のみ使用」での読み取りの促しの写真枚数は減少している。

⑤「連続型・非連続型併用」での読み取りの促し写真枚数が増加している。令和4年「地理探究」では、3社とも「連続・非連続型併用」が最も高い数値を示している。「非連続型」が読み取りの促しで大きな役割を担い始めている。

⑥「連続型のみ使用」は3社とも低下傾向で、この型での読み取りの促しの位置づけは低下してきている。

2)「非連続型のみ使用」での読み取りの促し

①枚数が多く、割合(%)が高いのは、3社すべて「1種類」、「2種類」、「3種類以上」の順。「1種類」が非常に多く、「3種類以上」は少ない。

②「3種類以上使用」 3社とも令和4年「地理探究」で10%に近い数字や、超える数字を示し、高くなっている。

③「1種類の非連続型のみ使用」での読み取り促しの場合は、

a「地図」:3社とも1位。

b「グラフ」:2位2社、3位1社。

c「模式図・イラスト」:2位1社、3位2社。

d「表・資料」:3社とも4位。

④「2 種類の非連続型使用」での読み取りの促しは、「地図+α」の組み合わせ枚数が多い。3 社とも上位 3 位内に「地図+α」の組み合わせが 2 つは入っている。

⑤「グラフ+グラフ」での読み取りを促す写真も一定数あり、3 社とも上位 3 位以内には入っている。

3)「連続・非連続型併用」の読み取りの促し

①枚数が多く、割合(%)が高いのは、3 社すべて「1 種類」、「2 種類」、「3 種類以上」の順。令和 4 年「地理探究」では 3 社とも 100 枚台に増加している。

②「1 種類の非連続型」での読み取りの促しは、3 社とも、増加傾向。

③「1 種類の非連続型」の内容は、

- a 「地図」: 3 社とも 1 位。
- b 「グラフ」: 2 位 2 社、3 位 1 社。
- c 「模式図・イラスト」: 2 位 1 社、3 位 2 社。
- d 「表・資料」: 3 社とも 4 位。

④「2 種類の非連続型」の組み合わせの分析

総枚数とその割合(%)とその推移の場合、3 社とも「地図+α」の形が非常に高い数値を示す。「地図」が読み取りを促す「非連続型」の中心。

2. 考察

①「連続型」での写真の読み取りの促しが中心であったが、改訂が進むごとに減少してきている。

②「非連続型」使用での読み取りは、「地図」での促しが最も多い。次いで「グラフ」での読み取りの促しが多い。

③「連続型・非連続型併用」による写真の読み取りの促しの位置づけが高くなっている。

④①～③の変化から、教科書本文に掲載されている写真の位置づけが、本文の補助資料から、本文内容の構造的な理解を深化させる教材へと変化してきていると考えられる。

して取り扱われている。

参考文献・参考ホームページ

- 沖 慶子(2002)「明治期の地理書および地理教科書における写真資料の導入」 人文地理学会大会研究発表要旨
- 久保哲成(2024A)「中学校社会科地理的分野教科書掲載の景観写真の読み取りに使用する連続型・非連続型テキストの数的推移とその分析—A 社出版の昭和 61 年教科書から令和 2 年教科書を分析対象として—」 兵庫地理第 69 号 pp.119-132
- 久保哲成(2024B)「高等学校「地理 B」・「地理探究」教科書掲載の景観写真の読み取りを促す連続型テキスト・非連続型テキストの数的推移とその分析—3 出版社の教科書を対象とした総量分析—」 地理教育研究第 35 号 pp.54-59
- 久保哲成(2025)「高等学校「地理 A」・「地理総合」教科書掲載の景観写真の読み取りを促す 非連続型テキストの組み合わせの数的推移とその分析 —3 出版社の教科書を対象として—」 兵庫地理第 70 号 pp.89-101
- 澤田康徳(2016)「小学校地図帳における世界に関する地理写真の内容の変化—自然事象を中心として—」 2015 年度日本地理学会春季学術大会発表要旨
- 田中 薫(1935)『地学写真』 古今書院 182p.
- 文部科学省ホームページ(2005):小・中・高校教育に関すること > 確かな学力 > 参考資料 > 平成 16 年度 臨時全国都道府県・指定都市教育委員会 指導主事会議(平成 17 年 1 月 19 日開催) > 資料 4-9 PISA 調査(読解力)の結果分析と改善の方向 > 1 PISA 調査における読解力の定義、特徴等
(https://www.mext.go.jp/A_menu/shotou/gAkuryoku/siryo/1379669.htm)
- 対象教科書出版社: 帝国書院、東京書籍、二宮書店

(くぼ てつなり: 神戸学院大学・非)

注

1) 学習指導要領において、地図帳は教科書と